



追悼の辞 故 樽井正義先生を偲んで

本学会の第26回学術集会・総会会長、慶應義塾大学名誉教授である樽井正義先生が2024年1月にご逝去されました。享年76歳でした。

先生は、本学会の初期より会員となられ、長きにわたり、専門の倫理学・生命倫理学に裏付けられたたくさんの優れた研究・活動をされたのみならず、本学会の運営にも大いにご尽力されました。2012年の学術集会・総会における主宰をはじめ、学会誌編集委員やECC山口メモリアルエイズ研究奨励賞選考委員など、さまざまな役職を務められました。

先生はHIV/AIDSの流行対策において人権を重視したアプローチを早期から提唱されてきました。その姿勢は特定非営利活動法人エイズ&ソサエティ研究会議の副代表や認定特定非営利活動法人ふれいす東京の理事を長きにわたり務められたことにも表れていると思います。またHIVと薬物使用、ハームリダクションの研究・啓発に取り組み、コミュニティとの協力とその視点を大切にされてきました。

国際連携においても、先生は日本と海外とのキーパーソンであり、1994年の第10回エイズ国際会議（横浜）や2005年の第7回アジア太平洋地域国際エイズ会議（神戸）などで重要な役割を果たされ、海外のHIV研究者やアクティビストとの連携を深められました。アジア太平洋エイズ学会の理事やグローバルファンド日本委員会のアドバイザーボードメンバーも務め、その貢献は国際的にも計りしれません。

そして、先生が長く教鞭を執られた慶應義塾大学にて、先生と、先生に講師として呼ばれた池上千寿子さんのお二人と出会えたことが、当時19歳の学生だった私にHIV/AIDSの活動・研究の魅力を教えてくださり、取り組み始めた最初のきっかけです。また2016年の国連エイズハイレベル会合に、先生と私が日本のコミュニティから参加しました。国連本部で開催された会議で右も左も分からない私に、国際会議の見方を教えてくださり、海外のアクティビストに紹介いただいたことは忘れがたい思い出です。

樽井正義先生の長年にわたる本学会とエイズ対策へのご尽力に、深い尊敬と感謝の意を表し、心よりの追悼を捧げます。

令和6年2月

日本エイズ学会 理事
特定非営利活動法人 akta 理事長
岩橋 恒太